

# 平成28年度病害虫発生予報第3号

平成28年 5月31日  
愛知 県

## 普通作物

### ・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
イネ	いもち病 (葉いもち)	平年並	県全域	5月下旬現在、発生を認めていない(平年並) 6月の降水量は平年並が多い	± ±~+
	紋枯病	やや多い	県全域	前年の発生量は多い 6月の降水量は平年並が多い	+ ±~+
	縞葉枯病	多い	西三河地域	前年の発生量はやや多い ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率は高い	+ +
	ニカメイガ	平年並 (やや早い)	県全域	予察灯及びフェロモントラップにおける誘殺数は平年並	±
	ヒメトビウンカ	やや多い (早い)	県全域	5月下旬の発生量はやや多い 予察灯における誘殺数は平年並	+ ±
	ツマグロヨコバイ	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並 予察灯における誘殺数は平年並	± ±

### ・防除対策

#### 〔イネ・紋枯病〕

前年発生が多かったほ場では、ほ場内での発生状況に注意し、中干し後の入水時に漏水などがないようにした上で、リンバー粒剤、モンカット粒剤、モンガリット粒剤などで防除しましょう。防除適期は出穂20日前頃ですが、発生状況により前後させましょう。

#### 〔イネ・縞葉枯病〕

本日発表の「イネ縞葉枯病情報第1号」を参照してください。

#### 〔イネ・ヒメトビウンカ〕

ムギの収穫が早まり、水田への成虫の飛び込みが早まると推測されます。縞葉枯病対策で防除が必要な場合は、「イネ縞葉枯病情報第1号」を参照して防除しましょう。

### ・留意事項

イネいもち病は気温20から25℃で降雨が続くと発生が多くなります。発生を確認したら、速やかに防除しましょう。また、補植用苗は本田でのいもち病の伝染源になるので、補植終了後は直ちに除去しましょう。

コムギほ場でミナミアオカメムシの発生を確認しています。詳しくは本日発表の「ミナミアオカメムシ情報第1号」を参照してください。

## 果樹

### ・ 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
ウンシュウミカン	そうか病	やや多い	県全域	5月下旬の発生量はやや多い 6月の降水量は平年並が多い	＋ ±～＋
	黒点病	やや多い	県全域	5月の枯枝の胞子形成量はやや多い 6月の降水量は平年並が多い	＋ ±～＋
	ミカンハダニ	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並	±
	アブラムシ類	少ない	県全域	5月下旬の発生量は少ない	－
	チャノキイロアザミウマ	やや多い (やや早い)	県全域	イヌマキにおける5月下旬の発生量はやや多い 粘着トラップにおける誘殺数は多い	＋ ＋
ナシ	黒星病	やや多い	県全域	5月下旬の発生量はやや多い 6月の降水量は平年並が多い	＋ ±～＋
	アブラムシ類	少ない	県全域	5月下旬の発生量は少ない	－
モモ	せん孔細菌病	多い	県全域	5月下旬の発生量は多い 6月の降水量は平年並が多い	＋ ±～＋
	黒星病	平年並	県全域	4月の発病枝率は平年並 6月の降水量は平年並が多い	± ±～＋
	灰星病	平年並	県全域	4月の発病花率は平年並 6月の降水量は平年並が多い	± ±～＋
	ナシヒメシンクイ	やや多い (やや早い)	県全域	フェロモントラップにおける越冬世代の誘殺数はやや多い	＋
	モモハモグリガ	平年並	県全域	5月下旬の被害葉率は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	± ±
ブドウ	べと病	やや多い (やや早い)	県全域	5月下旬の発生量はやや多い 6月の降水量は平年並が多い	＋ ±～＋
	黒とう病	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並 6月の降水量は平年並が多い	± ±～＋
	チャノキイロアザミウマ	平年並 (やや早い)	県全域	イヌマキにおける5月下旬の発生量は平年並 粘着トラップにおける誘殺数は平年並	± ±
カキ	炭疽病	平年並	県全域	前年秋の発生量は平年並 6月の降水量は平年並が多い	± ±～＋

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
カキ	角斑落葉病 円星落葉病	やや多い	県全域	前年秋の発生量はやや多い 6月の降水量は平年並か多い	＋ ±～＋
	うどんこ病	多い	県全域	5月下旬の発生量は多い	＋
果樹共通	カメムシ類	やや多い (やや早い)	県全域	越冬成虫密度はやや高い フェロモントラップ及び予察灯 における誘殺数は平年並からやや多い	＋ ±～＋

#### ・防除対策

##### 〔ウンシュウミカン・そうか病〕

発病した葉や果実は取り除き、園外へ持ち出して処分しましょう。ベンレート水和剤やナリアWDGなどで防除しましょう。

##### 〔ウンシュウミカン・黒点病〕

ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤などで防除しましょう。散布間隔は、累積降雨量200mmから250mmに達したとき、または散布後30日を目安としましょう。

##### 〔ウンシュウミカン・チャノキイロアザミウマ〕

本日発表の「チャノキイロアザミウマ情報第2号」を参照してください。

##### 〔ナシ・黒星病〕

4月14日発表の「平成28年度病害虫発生予察注意報第2号」を参照してください。

##### 〔モモ・せん孔細菌病〕

本日発表の「平成28年度病害虫発生予察注意報第4号」を参照してください。

##### 〔モモ・ナシヒメシンクイ〕

芯折れを確認したら早めに切り取り、園外に持ち出し処分しましょう。ノーモルト乳剤やフェニックス顆粒水和剤などで防除しましょう。

##### 〔ブドウ・べと病〕

一部地域ではすでに初発生を確認しており、今後発生に好適な条件も見込まれています。早期発見につとめ、発生を認めた場合は、発病部位を取り除くとともにベトファイター顆粒水和剤、ランマンフロアブルなどで防除しましょう。

##### 〔カキ・角斑落葉病、円星落葉病〕

樹勢が弱まると多発しやすいので、肥培管理に注意して樹勢の維持を図りましょう。キノンドーフロアブル、アミスター10フロアブルなどで防除しましょう。

##### 〔カキ・うどんこ病〕

早期落葉を防ぐため、バルコート水和剤やオンリーワンフロアブルなどで防除しましょう。

##### 〔果樹共通・カメムシ類〕

本日発表の「平成28年度病害虫発生予察注意報第3号」を参照してください。

#### ・留意事項

通常発生がみられないウンシュウミカンにおいても、カンキツかいよう病の発生を確認しています。発病した葉や枝は取り除き、園外へ持ち出すなど処分を徹底しましょう。強風を伴う降雨で感染が広がるので、その前後の防除を徹底しましょう。

ナシヒメシンクイは犬山市と西尾市に設置したフェロモントラップにおいて、第1世代成虫が誘殺され始めており、平年より5日程度早くなっています。他の産地においても防除適期が前年より早くなる可能性があるため、適期を逃さないように防除しましょう。

## 野菜

### ・留意事項

ミナミキイロアザミウマが媒介するキュウリ黄化えそ病（MYSV）が発生している施設キュウリほ場、タバココナジラミが媒介するトマト黄化葉巻病（TYLCV）が発生している施設トマトほ場では、次作への伝染を防ぐために、栽培終了後、植物残さをほ場外に持ち出す前に施設を密閉して、媒介虫を死滅させましょう。

施設ナスでも、ミナミキイロアザミウマが発生しているほ場では、次作への発生源とならないように、栽培終了後に施設を密閉してミナミキイロアザミウマを死滅させましょう。

## 花き

### ・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
キク (露地)	白さび病	多い	平坦部	5月下旬の発生量は多い 6月の降水量は平年並か多い	＋ ±～＋
		やや多い	中山間部	5月下旬の発生量は平年並 6月の降水量は平年並か多い	± ±～＋

### ・防除対策

#### 〔キク（露地）・白さび病〕

本日発表の「平成28年度病害虫発生予察注意報第5号」を参照してください。

### ・留意事項

豊川市のキク（露地）ほ場では、フェロモントラップにおけるオオタバコガの誘殺数が増えています。オオタバコガ幼虫による生長点への加害を防ぐため、ほ場への成虫の飛来及び幼虫の発生に注意し、適宜防除を行いましょう。ハダニ類、アザミウマ類などの害虫類は、気温が高いと増加しやすくなるので、ほ場をよく観察して発生を確認したら早めに防除しましょう。

### 参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台5月26日発表）

〈予想される向こう1か月の天候〉

期間の前半は、天気は数日の周期で変わるでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率50%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、平年並または高い確率ともに40%です。2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：20% 平年並：30% 高い：50%  
 〔降水量〕 少ない：20% 平年並：40% 多い：40%  
 〔日照時間〕 少ない：20% 平年並：40% 多い：40%